

幼稚園の実情を踏まえた多様な動きを 経験できる遊びの工夫を行った実践例

学校名 大阪市立城東幼稚園（大阪府）
全校幼児数 182名（男児93名 女児88名）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 06（6961）4664

メールアドレス k1782121a@ocec.ne.jp

1 研究のねらい

主体的に体を動かすことが好きな子供に育てる

2 研究の概要

- ・幼児の実態を把握し、幼児期運動指針を基に発達段階に応じた運動機能の発達を促す環境を構成する。
- ・できた喜びや達成感を感じられるように教師の援助を工夫し、実践を振り返り改善を図る。

○実践プログラムの紹介

□ 多様な動きを経験できる遊びの工夫例

○教師の手作り紙芝居「うみのぼうけん」を読んだ。1学期から楽しんできた魚ごっこのイメージをさらに膨らませた。

○新聞紙を使い運動遊具を作り、海の世界のものに見立て（泡ボール、泡の輪、わかめ）遊んだ。お話を取り入れ遊んでいく中で、共通のイメージや目的をもち、継続して遊ぶことができた。

○冒険に出かけた後には「頑張りベルト」にシールを1つずつ貼り、「頑張ったことで体が強くなった」ということが視覚的にわかるようにした。

○日々の幼児の遊びの姿から、遊具の数を増やしたり、改良したりし、何度も環境構成をし直した。幼児期運動指針「幼児期に経験する基本的な動きの例」を参考に、多様な動きが経験できるように配慮しながら、リズム室を海の世界をイメージして環境を整えた。活動の前にはイメージを膨らませ、活動に参加できるように声かけをしてからリズム室の扉を開けると「わ！すごい！」と歓声が上がり、進んで各コーナーでの遊びに取り組んでいった。

○わかめに見立てた新聞棒を単体で立つ大きなものと、自分で好きに動かすことのできるものを2種類用意した。幼児が、新聞棒を並べ替え、順番にジャンプして楽しむ姿が見られた。うまく跳べない幼児も、自分で新聞棒を動かして再挑戦した。教師が、跳ぶことができた喜びを受け止めていくことで、その後も自分達で工夫し並べ替えながら、何度も繰り返し跳ぶことを楽しんでいた。

○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 お互いの動きが視界に入り、十分に動けるように遊びのコーナー同士の配置を考えた。
- 2 待ち時間なく多様な運動要素が経験できるように、コーナーや遊具の数や種類を配慮した。
- 3 要所に教師が常時ついて、危険がないように補助をした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 お話を取り入れ共通のイメージや目的をもったことで、遊びへの意欲を高め、継続して主体的に環境にかかわり体を動かすことができた。
- 2 新聞遊具という扱いやすい遊具があったことで、自分で工夫して遊ぶ意欲につながった。
- 3 この遊びの中に含まれない動きを意識して今後の活動に取り入れていく。

○ 研究内容

【新聞棒を使った遊び】

廊下に新聞棒で飛び越して遊べる場を常設した。



【わかめのトンネルができたよ！】

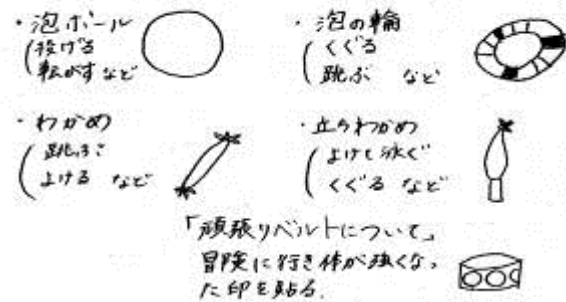
自立できるようにした新聞棒で遊びの場を幼児が構成



【新聞遊具やがんばりバンド】

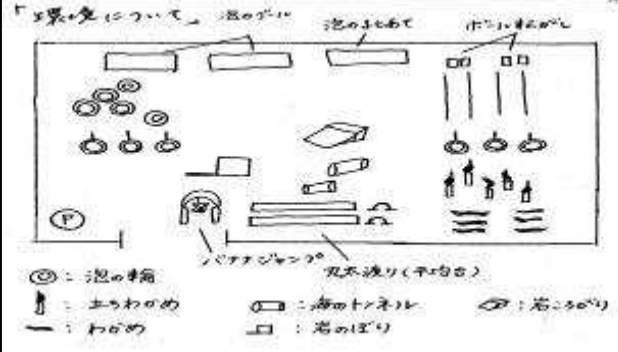
新聞は扱いやすく、幼児が自分で遊具を作って楽しめる

「新聞遊具について」



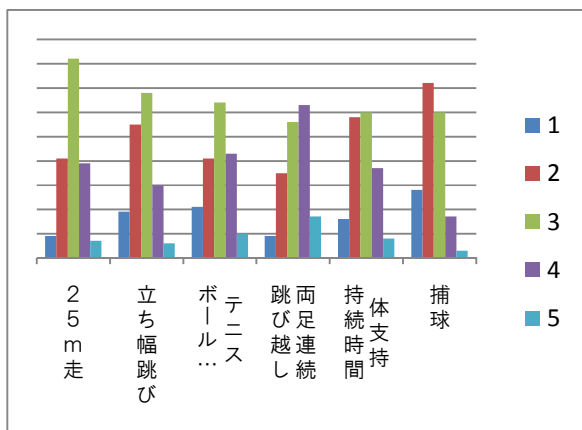
【「海の冒険」の遊びの場】

海の中のイメージで多様な動きができるように場を構成



【幼児の運動能力テスト、保護者アンケートの結果より】

運動能力テストの結果を5段階評定で分類する(3が平均値)と、幼児の傾向が見えてきた。



3が平均値で4、5は平均以上の測定値が出ていたものである。本取り組みの中でも飛び越しやボールを投げる、走るといった動作を繰り返していたことで、運動能力テストの中で平均値以上の結果が出てきている。反面、ボールを受ける、体を支えるなどの動きは経験が少ない分、苦手な傾向がみられる。

保護者アンケートでは、「子どもたちが体を動かすことを楽しんでいるか」という設問への回答が90%以上になり、体を動かすことを楽しむ姿がうかがえる。

【今後の課題】

研究を受けて、気が付いたこと

体を動かすことが好きな子供を育てるために、「やってみたくなる環境」「友達と認め合い、励まし合う関係作り」「イメージをもって自分なりの目標を決める」などの働きかけが必要である。また、運動能力テストをすることで、子供たちが余り経験していない動きが分かったことを踏まえ、今後活動の中に意図して取り入れていきたい。また、保護者にも実態を知らせ家庭での生活習慣(徒歩通園、自分の荷物を自分で持つなど)の啓発に努めていきたい。